

議事録

日時	令和5年7月28日(金) 午後3時～午後4時30分	
場所	河内長野市役所 8階 802会議室	
議題	第2回河内長野市未来技術地域実装協議会	
出席者	実装協議会委員	19名(内4名 WEB 出席)
	事務局(河内長野市政策企画課)	5名
資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 河内長野市 未来技術地域実装協議会 規約(案) ・資料2 河内長野市未来技術社会実装事業について ・資料3 昨年度事業報告および今年度の事業計画について 	
議事	<p>1. 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河内長野市総合政策部理事より挨拶 ・協議会委員のご紹介 <p>2. 案件</p> <p>(1)協議会の規約 委員の変更および承認について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員の変更について、意見等なしのため、規約第4条第2項に基づき、新任委員7名を承認。 ・規約第8条第2項に基づき、委員の過半数以上の出席による会議成立を確認 <p>(2)河内長野市未来技術社会実装事業について 資料2により説明</p> <p>(3)昨年度事業報告および今年度の事業計画について 資料3により説明</p> <p><質疑応答></p> <p>質問1:</p> <p>地域通貨事業について、令和4年度にプレミアム付モックルコイン5,000円分のポイントを3,000円で販売したとのことだが、これは河内長野市民限定の事業か。それとも、河内長野市外の方にも販売し、外貨を獲得するという取り組みもされた事業か。</p> <p>回答1:</p> <p>令和4年度の5,000円分のプレミアム付モックルコインについては、河内長野市民限定の事業であり、資料の次に記載されている「チャージボーナスキャンペーン」については、河内長野市外の方にも購入し利用できる仕組みで運営した。</p>	

質問2:

資料3の4ページの地域通貨促進事業の課題について、システムの改良以外に「地域住民への意識醸成等に関する施策が必要」と明確化されているが、令和4年度では具体的に施策を講じたか。

回答2:

意識醸成の施策として、スマートフォンを持っていない高齢者の方に対しスマートフォンを購入すると、モックルコインが給付される購入補助事業のキャンペーンを実施した。

同時に、スマートフォンの利便性について、例えば災害時に防災無線だけでなく、河内長野市の LINE アカウントから開設された避難所の案内を受理できる等、具体的な利用方法を提示し、意識醸成を図っている。

また、他の課の施策となるが、スマートフォンに不慣れな方を対象に、スマートフォン講座を継続的に実施し、持続的な意識醸成を図っている。

質問3:

地域通貨事業の加盟店舗数について、現在230店舗が加盟しているが、この加盟店舗数は十分と考えているか、まだ増やしていく必要があると考えているか。

回答3:

地域通貨事業の加盟店舗については、中小企業法に則って認定するため、大規模店は対象外となっている。これは地域通貨事業が、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金により始まった経緯があり、中小企業への支援が目的であったことから店舗数が限定されている。

その一方で、地域通貨事業におけるデジタル通貨の仕組みに対して、市内事業者側の苦手意識があり、そのようなデジタルデバイドを解消し、加盟店舗の拡大を図っていきたい。

質問4:

自動運転事業について、説明のあった遠隔アシストシステムの概要と当該システムの運用方法はどのようなものを予定しているか。

回答4:

遠隔アシストシステムの概要としては、自動運転車両に搭載したカメラの映像を、拠点でモニタリングしている操縦者が発進と停止のボタンを押して、自動運転車両を操縦するというシステムの導入を検討している。

現段階での当該システムの運用については、車両に運転手が乗車したうえで、拠点の操縦者がモニターで道路の安全性を確認し、運転手に発進および停止の可否を確認するスキームを踏んで、操縦者がボタンで車両を操縦するとい

う、実証実験を検討している。

この実証実験は、運転の責任が運転手に生じることを認識したうえで、慎重に進め、当該システムの運用による安全性やカメラの視認性を十分に確認し、システムの課題を確認・解消して、将来的な車両の無人化による遠隔操縦を目指して進めていく。

回答を受けての意見4:

遠隔アシストシステムにおいて、操縦者が遠隔で発進または停止のボタンを押す行為が、これまでの自動運転で認定していた、ガイドライン型の運行に該当しない可能性がある。予定されている実証実験での操縦方法が、運転行為に当たるかどうかの検討が必要である。

システムの内容によっては、道路使用許可が必要となる可能性もあるので、実証実験の計画段階から大阪府警察に相談することを推奨する。相談内容は警察庁にも連携されるので、当該実証実験の運用体制等について、連携して検討していきたい。

質問5:

資料3の17ページにおけるレベル4運行に向けた課題について、ODD外の対応は、乗車したドライバーが行う必要があり、車内にドライバーのいない遠隔型の運転は、実証実験以外では実装ができないとの記載がある。これについては、道路使用許可を取得すれば、特定自動運行と併用して、実装することも可能と考えられる。この部分について、整理と確認をしてほしい。

回答5:

道路使用許可による運行の可能性については、大阪府警察には、自動運転レベル4に向けたステップアップの資料を提供している。

自動運転を実装する場合に、一部の地域内で道路使用許可を取得することは可能であるが、将来的に、例えば河内長野市内各所で自動運転を実装する場合に、各地域で、その都度で道路使用許可を取得することは現実的ではないと考える。このため、法規や制度的な緩和を求めていきたいと考える。

質問6:

地域通貨事業について、加盟店舗の目標数があるか。また、目標数がある場合は、それに対して、現在は何%達成しているか。

回答:6

加盟店舗の目標数は特に定めていないが、市内事業者に対しては、引き続きデジタル地域通貨の仕組みの説明を行い、加盟店舗の増加に努めたい。

質問7:

地域通貨事業の加盟店舗について、販売店や飲食店以外に、今後モックルコ

インの利用可能な事業者の種類、例えば医療機関等に拡大される予定があるか。

回答7:

今年度はタクシー事業者やバス事業者についても、地域通貨が使用できるよう、調整したところである。今後も様々な種類の事業者に、利用を拡大できたらと考えている。

質問8:

遠隔診療について、スマートキュアで実証実験を行ったデータが、どのように連携されるのか。また、将来的にORDENとの連携可能性を検討しているか。

回答8:

現在、遠隔診療の実証実験が始まったところであり、多方面における診療データの活用については、患者が必要なサポートを受けるためには、データ連携が必要不可欠であることは、痛切に感じており、今後、議論を深めていくところである。

質問9:

遠隔診療について、コノミヤ等のスーパーや居宅以外でのサテライト拠点におけるオンライン診療の実施可能性に期待しているので、今後の規制改革を見据えた形で、サテライト診療に関してもより充実した事業計画を進めて欲しい。

参考として、三重県の事例では、医療マースとして自動車の中に医療器具等を取り付けて地域を回り、自動車から医師に遠隔診療を行っている。

回答9:

遠隔診療の意義として、寝たきりの方が自宅で直接医師と繋がることで、移動にかかる身体的な負荷や送迎による介護サービス費用の軽減等に寄与できることと考えている。

その意義から考えると、山間地に居住している方は、例えば歩行可能でも、病院への通院が難しい場合も想定される。その場合に、例えば集会所に訪問看護ステーションの看護師が来て遠隔診療を実施し、直接病院に行かなくても診察できるようになれば、サテライト診療を推進する意義があると考えている。

その意義を公にするためにも、課題に挙げている医療行為として遠隔診療が成立するか、また、訪問看護師の診療報酬にかかる、法規・制度的検討が必要であると考えている。

質問10:

全国のオールドニュータウンの課題解決に向けて、河内長野市が、そのモデルを示していくこととなる。河内長野市の成果やアプローチを、全国的に横展開することを意識して取りまとめるなど、全国的な課題解決に資するように整理を

して欲しい。

回答10:

これまでの全国的な事例を把握し、オールドタウンの課題解決の良い事例になるよう実施していきたい。

意見10:

全事業共通として、地域の課題解決の実現性について、インプット・アウトプットだけでなく、アウトカムに繋がる検証が必要であると考え。このため、地域住民の方々が、満足感を得ているかの検証する必要があると考える。

意見11:

大阪府としては、事業推進にかかる予算について、市単独事業としての位置づけでなく、全国的なオールドニュータウンの課題解決の先行モデルとして実施していただくことで、様々な支援や協力をしていきたいと考えている。

一方で、未来技術社会実装事業そのものは、補助金等が交付される事業ではなく、関連する補助金や助言、支援が受けやすくなるという認識である。今後、事業を推進していくにあたり、現状の国の補助制度で十分か。大阪府等でも支援できるような、新たな補助メニューの観点があれば教示して欲しい。

回答11:

これまでも、国や大阪府より補助金や支援をいただっており、今年度は遠隔診療について、大阪府のスマートシティ戦略推進補助金により、遠隔診療の実証実験を推進していくことになった。

資料3にて説明した事業については、地域の合意形成や様々な主体との連携を深め、何年もかけて段階的に事業を進めていく必要がある。このため、実証実験の実施についても、実務上、1年間の単年度で完了することはない。

これらの事業スキームを鑑みて、単年度で終了する補助金ではなく、経年的な補助金制度を拡充し、事業実施に即した補助金制度の在り方を検討して欲しい。

回答11に対して意見 11-2:

事業実施にかかる事情は把握している。

国・府ともに関係省庁に意見の共有を図っていきたい。

意見12:

資料3の10ページに記載の検討課題について、厚生労働省から「オンライン診療の適切な実施に関する指針ガイドライン」が出ている。このガイドラインに示されている事項を遵守すれば、地域住民に寄り添った運用の仕方を検討することは可能であると考えている。

また、現行の保険診療における標準報酬は、中央社会保険医療協議会の答申を踏まえて決定されている。当該協議会に対して、各関係機関から意見を出す

など、報酬改定に向けて働きかけていくのもひとつと考えている。

意見13:

昨今、急速に高齢化が進行する中で、住み慣れた環境で、自分らしく生活し続けることを選択できる仕組みづくりを、地域包括ケアシステムという。これを推進するためには、生活支援の体制整備や医療介護の連携が必要である。それは、地域によって人口や高齢率、交通機関の有無等の事情が異なるため、各地域に応じたやり方をデザインすることにより、地域のあるべき姿を共有し、解決策を構築していくことが必要であると考えます。

河内長野市が推進する各事業は、健康医療や移動支援、自動運転などの課題に取り組んでおり、これは、他の地域であっても、避けては通れない重要な課題であると認識している。特に、地域との関わりとして、医師会の先生方を含めて、議論を重ねて事業を推進していることは、非常に貴重で大切なことである。各事業に関わった方が、取り組んでよかったと思うことのできる事業となると思う。

回答13-1:

河内長野市が推進する各事業は、地域に入ってまちづくりをしてきた中で、その必要性が見えてきた。そして事業の推進により、新たな課題や新たなコミュニティが生まれ、それらを踏まえて、社会福祉協議会と協力して地域づくりの体制を整えてきた。良い仕組みが生まれてきたことを含めて、河内長野市がモデルになっていけたらと考えている。

回答13-2:

南花台地区の移動支援は、その行為だけでなく、様々な意識的な改革を生じさせ、地域からの期待が連鎖して、様々な取り組みに繋がっていった。

遠隔診療と関連して、南花台地区に看護専門学校が誘致され、当該学校が地域住民の方と関わっている。介護予防には健常者も対象になると、授業のカリキュラムも変化している。

様々なことが作用して、地域の仕組みが構築されてきているので、多くの意見を取り入れていきたい。

質問14:

自動運転に関して、資料3の14ページの「負担軽減や安全性についてスタッフ・利用者からヒアリングを実施し運行課題を検証する必要がある」について、各自動運転ルートの子ーズを調査して、地域公共交通の課題に対応していくための手段として検証し、実装に向けて行って欲しい。

回答14:

自動運転ルートの子ーズ調査の必要性は把握している。

これまでに地域の方向けの、アンケート調査を実施し、利便性のヒアリングを

行ってきた。本年度は、アンケート調査の予定はないが、定期的に調査を実施し、地域のニーズを把握して、運行に反映していけたらと考えている。

また、公共交通事業者とは協議を重ね、公共交通に繋がる移動支援や地域外への移動の利便性の向上に向けた運行検討を進められるように考えていきたい。

質問15:

本事業概要では、自動運転の遠隔監視システムで、AIの活用に関する説明があり、その課題で地域のスタッフが、遠隔監視の画面を見続けて、疲れを感じたり、酔いそうになったりが挙げられていた。昨今、AIによる異常検出等が技術的に提供されてきているため、それをAIで担うことはできないか。

また、河内長野市は、大阪府内で最も地盤が固い地域であると聞いている。質問でなく、提案であるが、ORDENのデータセンターを設置するときに、地震などの災害を考えて、サブのセンターを河内長野市に置いてはどうか。

回答15:

質問のとおり、AIの活用について、地域のスタッフが画面を見続けるということは、不自然さを感じる。一度、ヤマハ発動機株式会社の担当者と、まず意見ベースで相談し、今後の検討課題としていきたい。

災害発生を予測し、データセンターを大阪府咲洲庁舎とは別で設置する際は、河内長野市のような硬い地盤を選んでいただけたらと思う。

3. 閉会